

# 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2025年5月15日

事業ID:2024017408

事業名:ユマニチュード技法の指導者と実践者の養成

団体名:(一社)日本ユマニチュード学会

代表者名:本田美和子 印

TEL:03-6555-2357

事業完了日:2025年4月30日

## ■契約時

事業費総額	:	15,500,000 円
自己負担額	:	3,100,000 円
助成金額	:	12,400,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

## ■事業完了時

事業費総額	:	13,857,913 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	2,771,913 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	11,086,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	1,314,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。  
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

### ■事業内容1

#### (1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. ユマニチュード施設認証調査人材育成事業  
(1)時期:2024年10月～2025年3月  
(2)場所:全国  
(3)参加者:認証調査員6名  
(4)内容:施設認証システムの理解・訪問調査の技術と評価方法学習・結果の評価分析に関する研修



#### (2)事業完了時の事業内容(実績)

1. ユマニチュード施設認証調査人材育成事業  
(1)時期:2024年10月～2025年3月  
(2)場所:全国(オンライン含む)  
(3)参加者:認証調査員6名  
(4)内容:施設認証システムの理解・訪問調査の技術と評価方法学習・結果の評価分析に関する研修・オンライン進捗報告会(質問&確認会)第4木曜日計5回実施・認証調査員6名参加(動画確認含む)  
10月:認証の評価基準および調査の流れ  
11月:プレ帳票確認コミットメント  
12月:アセスメントから導き出す個別支援計画の

	12月・アヒスヘンドかつ等と山9個加又抜計画の 人生レベルの目標設定 1月:OJT調査対象事業所帳票確認 2月:調査員業務の把握 3月:OJT報告、調査員業務の理解 ・認証調査対象事業所OJT(見学)、フォローアッ プ:認証調査員6名参加 ・認証調査対象事業所OJT(調査員サブ)、フォ ローアップ:認証調査員6名参加
--	---

(3)成功したこととその要因  
認証制度のシステムの理解・訪問調査の技術と評価方法、評価結果の評価分析方法について参加者個々の進捗に合わせて助言・フォローを行い、調査員が定期的に相互交流できる場で、協力して学び合える機会を作ったため、6名全員の育成に至った。

(4)失敗したこととその要因  
特記すべき事項なし

(5)事業内容詳細  
別途資料添付  
「成果物①ユマニチュード認証制度担当インストラクター育成トレーニング」  
「成果物②既存調査員3名スキルアップ」  
「成果物③事業所3分の1達成確認一覧」

## ■事業内容2

(1)契約時の事業内容 2. ユマニチュードインストラクター養成事業 (1)時期:2024年10月～2025年3月 (2)場所:全国 (3)参加者:医療/介護機関に所属する専門職13名の新規養成者および現任の35名 (4)内容: a. ユマニチュードのインストラクターの育成・スキルアップのための講義・実技研修・実務研修 b. ユマニチュード考案者Yves Ginestetによる直接教育プログラムの映像撮影・教材コンテンツ化	(2)事業内容の実施(完了)状況 2. ユマニチュードインストラクター養成事業 (1)時期:2024年10月～2025年3月 (2)場所:東京医療センター・慶應義塾大学病院等 (3)参加者:医療/介護機関に所属する専門職13名の新規養成者および現任の35名 (4)内容: a. ユマニチュードのインストラクターの育成・スキルアップのための講義・実技研修・実務研修を実施し、12名の認定インストラクター、1名の準インストラクターを新たに養成。現任認定インストラクターのフォローアップを実施。 b. ユマニチュード考案者Yves Ginestetによる直接教育プログラムの映像撮影・教材コンテンツを完成させた。
--	--

(3)成功したこととその要因  
<ユマニチュードインストラクター養成>  
・ユマニチュード考案者のYves Ginestetによる質の高い教育を集中的に実施したため  
・ユマニチュード認定チーフインストラクターによる教育手法に関する指導を複数回実施し、実践力を養成することができたため

(4)失敗したこととその要因  
特記すべき事項なし

(5)事業内容詳細  
a.ユマニチュードのインストラクターの育成・スキルアップ  
①新規養成インストラクター教育

・以下の日程でユマニチュード認定インストラクター養成を実施した。  
 2024年10月 研修用教育資料に基づく教育および実践、東京医療センターユマニチュード実践実務研修  
 2024年11月 教育手法実務研修、東京医療センターユマニチュード実践実務研修  
 2024年12月 教育手法実務研修、東京医療センターユマニチュード実践実務研修  
 2025年1月 対面技術研修実務研修、東京医療センターユマニチュード実践実務研修  
 2025年2月 慶應義塾大学病院ユマニチュード研修実務研修、京都大学附属病院ユマニチュード研修実務研修  
 2025年3月 オンライン基礎研修実務研修、インストラクター修了試験・認定証交付、活動報告会  
 養成成果:新規養成インストラクター:14名・準インストラクター:1名

## ②現任インストラクターフォローアップ

現任のインストラクターに対して、個別に事例ベースのケア技術検討機会を設け、講演等の教材アップデートを実施した。

・ユマニチュード学会インストラクター継続教育プロジェクト担当者と相談し、インストラクターが日常のケアで困難を感じている問題についての相談を受け付けることとした。期間中に10名のインストラクターからの事例相談・指導に関する相談を受け、対応した。

・プログラム別の教材について、ユマニチュード考案者:イヴ・ジネスト先生と検討を行い、①講演用スライド ②ユマニチュード実践者育成プログラム用教材 ③ユマニチュード実践者リーダー養成プログラム用教材 ④インストラクター育成教育プログラム用教材のアップデートを行なった

## ■事業内容3

### (1)契約時の事業内容

3. ケア専門職を対象としたユマニチュード教育事業  
 (1)時期:2024年10月～2025年3月  
 (2)場所:オンライン、福岡市  
 (3)参加者:ユマニチュード認証に取り組む介護/医療施設5施設の職員を含む、高齢者介護/医療に携わる専門職延べ330名  
 (4)内容:  
 2024 年度 事業計画【ユマニチュード技法の指導者と実践者の養成】  
 a. ユマニチュードの基礎理念・コミュニケーション技術・認知症理解に関するオンライン研修  
 b. ユマニチュード認証に取り組む福岡市内の介護/医療施設5施設をサポート

### (2)事業内容の実施(完了)状況

3. ケア専門職を対象としたユマニチュード教育事業:ほぼ予定通りに実施  
 (1)時期:2025年1月～2025年3月末  
 (2)場所:オンライン:講師/東京、受講者/福岡市  
 (3)参加者:ユマニチュード認証に取り組む介護/医療施設3施設の職員を含む、高齢者介護/医療に携わる専門職延べ210名(基礎研修1:96名、基礎研修2:57名、基礎研修3:57名)※3名入金後、受講なし  
 (4)内容:  
 2024 年度 事業計画【ユマニチュード技法の指導者と実践者の養成】  
 a. 基礎研修①7回、基礎研修②3回、基礎研修③2回の実施→基礎研修①は、予定より2回増設  
 b. ユマニチュード認証に取り組む福岡市内の介護/医療施設5施設をサポート→3施設より参加あり(フェリオ百道、アンペレーナ百道、特別養護老人ホームりんごの家)

### (3)成功したこととその要因

参加人数は目標に届かなかったものの、本事業は、福岡市に後援名義をいただいたことにより、区役所や市民センター、地域包括支援センターなど市有施設に紙のチラシを配架でき、かつ、追加で市内の高齢者施設(2000～3000箇所)や、過去福岡市主催で同研修(基礎研修1)を受講した方35名(団体の場合代表者)にメール配信する等、福岡市と連携して広く広報することができた。また、認証に取り組む施設5施設からは3施設のべ27名の参加があり、うち1施設の関連施設から11名の参加があった。

### (4)失敗したこととその要因

上記の通り、福岡市の協力を得て、福岡市内に広く広報し、また学会のサイト、SNS、メールマガジン等で広く

上記の通り、福岡市の協力を得て、福岡市内に広く広報し、また子会のサイト、SNS、メールマガジン等でも文  
 講の働きかけを継続的にこなしたが、参加人数が目標に届かなかった要因は以下を考える。  
 ①広報期間の不足：事業の詳細（講座日時等）決定が11月下旬で、その後、講座の運営準備、チラシ配布、申込  
 サイトアップは12月上旬よりおこなったが、十分な期間が確保できなかった。事業の詳細に関しては、受講者  
 の価格見直しが12月まであり、講座運営が煩雑になった。  
 ②過去最大規模のインフルエンザ流行：今回の教育事業は2024年の冬季インフルエンザ流行と重なった。  
 2024年の冬季インフルエンザは、国立健康危機管理研究機構の定点観測で1999年以降の過去最大規模と  
 なり、介護・医療機関はその対応に苦慮する事態となった。このため、職員が研修に参加することが困難な状  
 況であった。

#### (5)事業内容詳細

- ・【専門職対象／福岡市在勤・在住の方】ユマニチュード個人向けオンライン研修基礎研修1, 2, 3申込サイト  
<https://jhuma.org/2025fukuoka-online/>
- ・【専門職対象／福岡市在勤・在住の方】ユマニチュード個人向けオンライン研修基礎研修1, 追加申込サイト  
<https://jhuma.org/fukuokakenshu2025/>

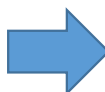
#### 【参加した専門職が在籍する施設の一覧】

Bloom訪問看護ステーション、アンペレーナ百道、グランドハウス梅林、グループホーム ケアスタ福岡、グルー  
 プホームライフエイド、ケアリングデイサービス城南、ケアリングデイサービス筥崎、ケアリング博多支店、しろう  
 ま野方、ひまわりの里、フェリオ天神、フェリオ百道、ホスピタグラン大濠公園、ユニ・チャーム株式会社、医療法  
 人 川崎外科整形外科医、医療法人相生会 福岡みらい病院、医療法人相生会金隈病院、株式会社ケアリン  
 グ、看護小規模多機能しろうま野方、看護小規模多機能居宅介護かたえの杜、金隈病院、国家公務員共済組合  
 連合会 千早病院、済生会福岡総合病院、桜十字福岡病院、産業医科大学、社会医療法人財団白十字会白十字  
 病院、社会福祉法人グリーンコープ、小規模多機能ホームなごみの家、小規模多機能ホームなごみの家しか  
 た、小規模多機能ホームひまわり大楠、千早病院、村上華林堂病院、村上華林堂病院サービス付き高齢者住宅  
 かりん、特別養護老人ホーム 月隈愛心の丘、特別養護老人ホームマナハウス、特別養護老人ホームりんごの  
 家、那珂川病院、博愛会病院、白十字リハビリテーション病院、白十字病院、板付けいあいホーム、百年橋リハ  
 ビリテーション病院、福岡みらい病院、福岡リハビリテーション病院、福岡看護大学、福岡市博多第五地域包括  
 支援センタ、福岡市民病院、複合型サービスケアリング筥崎館、麻生介護サービス アップルハート訪問介護、  
 老人介護保健施設いこいの森

#### ■事業内容4

##### (1)契約時の事業内容

##### (2)事業内容の実施(完了)状況



##### (3)成功したこととその要因

##### (4)失敗したこととその要因

##### (5)事業内容詳細

#### 2.契約時事業目標の達成状況：

## (1)助成契約書記載の目標

### <中長期的目標>

福岡市と協働し、1市内のケア専門職・家族介護者へ良質なケア技術教育(ユマニチュード)を実施することでケアに関する負担を軽減し、生活の質の向上を目指す。2質の高いケアが実現している場であることを客観的に評価するユマニチュード認証施設の普及を支援する。3現在圧倒的に不足しているユマニチュードインストラクターを養成し、専門職教育の機動力として活用する。

### <数値目標>

- ・新規認証調査員6名の養成と現行の認証調査員3名のスキルアップ
- ・新規インストラクター13名の養成と現行35名のスキルアップ
- ・福岡市内の専門職対象オンライン研修延べ330名の受講(研修1:150名、研修2:90名、研修3:90名)
- ・福岡市内でユマニチュード認証に取り組む5施設が、ブロンズ認証取得に必要な項目の1/3を達成する

### <最終目標>

ユマニチュードを健寿社会を支える社会基盤とする。福岡市の全ての高齢者施設・児童施設にユマニチュードが導入される。ケアを受ける当事者だけでなく、そこで働く人々の生活の質を上げることで離職率を60%削減する。その結果介護人材流出を防ぎ、介護産業の経営状況を改善させ、質の高い良いケアの場との両立が実現する社会を目指す。

## (2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	650	文字数チェック	OK
<p>1. ユマニチュード施設認証調査人材育成事業について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・月1回開催の進捗報告会で施設認証システムの理解・訪問調査の技術と評価方法学習・結果の評価分析に関する研修の受講、調査員としての情報共有、認証審査見学及び調査員OJTの参加により、目標の6名の新規認証調査員が養成された。</li><li>・認証調査員3名は、新規認証調査員養成への参加、認証審査調査員としての証憑確認、事業所訪問、調査員同士の振り返りによりスキルアップが図られた。</li><li>・福岡市内でユマニチュード認証に取り組む5施設に担当アドバイザーをつけ、ブロンズ認証取得に必要な評価基準の理解を深めた結果、事業所1は2024年12月にブロンズ認証を取得、事業所2は2024年8月にブロンズ必須224項目中219項目を達成、他3事業所は、2025年3月の訪問でブロンズ認証項目の1/3を達成することができた。</li></ul> <p>2. ユマニチュードインストラクター養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・新規インストラクター13名の養成という目標については、質の高い教育を集中的に実施したことで、1名多い14名の養成に至った。</li><li>・現行35名のスキルアップについては、個別に事例ベースのケア技術検討機会を設け、講演等の教材アップデートを実施した。</li></ul> <p>3. ケア専門職を対象としたユマニチュード教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・福岡市内の専門職対象オンライン研修延べ330名の受講(研修1:150名、研修2:90名、研修3:90名)を目標としていたが、延べ210名の受講(研修1:96名、研修2:57名、研修3:57名)に留まった。</li></ul>			

## 3.事業実施によって得られた成果

<p>本事業によって、質の高いケア技法として学術的・社会的に実績をもつユマニチュードを自治体レベルで市民生活・高齢者施設等に導入することで、社会基盤として活用し、ケアの提供者もケアを受ける人も双方が安心して暮らせる共生社会の誕生を福岡市で実現するという目的に向かって大きな一歩を踏み出すことができた。</p> <p>具体的には、事業としてはまずは半年という限られた期間ではあったものの、福岡市と協働し、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①市内のケア専門職・家族介護者へ良質なケア技術教育(ユマニチュード)を実施することでケアに関する負担を軽減し、生活の質の向上を目指す。</li><li>②質の高いケアが実現している場であることを客観的に評価するユマニチュード認証施設の誕生を支援する。</li><li>③現在圧倒的に不足しているユマニチュードインストラクターを養成し、専門職教育の機動力として活用する。</li></ul> <p>という中長期目標を達成するために基礎となる土台を構築することができ、また類似内容で行う翌年度1年間の事業を成功させるための経験と深い知見を積むことができた。</p>
--

## 4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

<p>1. ユマニチュード施設認証調査人材育成事業について</p> <p>調査員養成については、調査員として必要なスキルが不足している。また調査員として稼働する時間の確保が</p>
--

調査員育成については、調査員として必要な学びが広範囲になり、また調査員として稼働する時間の確保が難しいことから、調査員希望者が少なかった。対応策として今後は、不規則な勤務体系で働く医療・介護従事者が認証調査について学ぶ際に、より時間的・空間的流動性をもつ参加しやすい養成プログラムを構築する。具体的にはオンデマンド教育、オンライン指導を充実させる。

育成された調査員が活動する認証調査に関しては、調査員の業務負担の軽減し、時間的制約のある調査員が稼働しやすい調査手法を用いる。具体的には書類審査プロセスの効率化、訪問審査要件の厳格化を行う。

ブロンズ認証取得1/3達成について、事業所毎にユマニチュードケアの理解に差があり、予定以上の働きかけが必要になった。また、組織で取り組むことを求められるが、重要なコミットメント項目の理解を深めることが難しかったため、事業所の取り組み開始時(前)にコミットメントの重要性と何を求めているのかを説明し、組織として取り組める体制を整える、また事業所が必要な項目を選択できる評価基準項目毎の講義(評価基準項目の理解を深める)等を実施し、個々の理解を深める等の対応をしていく。

## 2. ユマニチュードインストラクター養成事業

現任インストラクターの活動に個人差があることが明らかになり、今後の継続教育の実施方法に工夫が必要であることが課題である。対応策として、今回アップデートした教材を配布する際に、より具体的な指導方法・活動方法についてのガイダンスを添える。

## 3. ケア専門職を対象としたユマニチュード教育事業

告知期間が短かったため十分な広報活動ができなかったことを踏まえ、2025年度の教育事業については、福岡市と連携の上、可能な限り早めにスケジュールを確定し十分な告知期間を確保する必要がある。また、オンライン基礎研修1～3の受講者より、さらに踏み込んだ現場でのトレーニングを希望する声が多く挙がったため、2025年度はオンライン研修を減らし、対面技術研修を追加することにより、専門職のニーズをより反映させた形で進行を予定している。

## 5. 事業成果物

### (1) 助成契約書記載の成果物名称

・事業報告書  
・インストラクター教育プログラムコンテンツ  
・広報小冊子



### (2) 事業完了時の成果物名称

・事業報告書  
・インストラクター教育プログラムコンテンツ  
・広報小冊子

### (3) 未作成となった要因

特記すべき事項なし

### (4) 成果物を登録したウェブサイトのURL

[https://fields.canpan.info/report/search?keyword=%E3%83%A6%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%81%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%89&target\\_title=on&target\\_abstract=on&target\\_organization=on&target\\_subsidies=on&x=86&y=39](https://fields.canpan.info/report/search?keyword=%E3%83%A6%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%81%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%89&target_title=on&target_abstract=on&target_organization=on&target_subsidies=on&x=86&y=39)